

立教大学学術推進特別重点資金 (立教 S F R)

在外研究

2014年度研究成果報告書

研究代表者	所属部局・職		氏名	
	観光学部交流文化学科・教授		舩谷 鋭 印	
研究テーマ	東南アジア華人研究：言語文化を中心に			
全研修期間	14年 9月 20日 ～ 15年 9月 19日 (365日間)			
経費	年度経費	SFR申請額	所属学部からの補助額	SFR助成額
	2013年度	円	円	円
	2014年度	1,692,860円	850,000円	842,860円
主な滞在国及び研究機関名	国名	研究機関名		
	シンガポール	南洋理工大学		
研究成果の概要 (図・グラフは使用しないこと)				
<p>人の移動の代表的事例である華僑華人は、8割以上がアセアン地域に集住するが、彼らの言語文化、特に民族語・華語(中国語)の創作表現と関連史料の一次資料を、世界的な当該資料集積地であるシンガポールの研究機関、文書館で総合的に把握することができた。</p> <p>東南アジアの中でも資料収集の規模と利用環境の良さで群を抜くシンガポールだが、最近の資料については、東南アジア華人の最高学府だった南洋大学を継承する南洋理工大で所属研究者として、20世紀を中心としたシンガポール独立前後の資料については、シンガポール国立大学、国立図書館、国立公文書館などに閲覧利用者として通い、収集を行った。</p> <p>シンガポールは地政的、設備的にアセアンのハブであり、任地大学から国境までわずか20分の距離である。こうしたアクセスの良さを、ヨーロッパにおけるイギリスに擬する向きもあるが、申請者の過去20年間の東南アジア華人研究の成果と人脈を踏まえ、シンガポール、マレーシアを中心に、20世紀以降の Sinophone Literature である「馬華文学」研究について、しばしば近隣の大学、学会、研究会に招聘され、議論できた。会議によっては、パネリストが全員違う地域からで、このテーマのグローバルな研究動向や、既存テーマの位置付けが理解できた。</p>				

**研究成果の概要 (つづき)**

こうした視点と一次資料を得、これまでに整理、研究して来た自らの業績も含む先行研究と参照し、端的に「三年八ヶ月」とも呼ばれる日本軍政期(1942-1945)、および戦直後期研究を中心に、先行研究の批判と研究事情の確認および解釈が進められた。さらに、現在世界の文学研究において、大きなトピックの一つになっている "Sinophone Literature" の意味と意義について、おぼろげながらも把握できつつあるように思われる。

以上のように、当該研究分野を精緻化し、より魅力的な学問分野の構築に向け、図書館蔵書状況から本学独自とも言えるアジアのポストコロニアル文学研究、および人の移動研究としての交流文学研究進めることができた。

**キーワード** (研究内容をよく表しているものを5項目で記入)

[華僑華人] [東南アジア] [マレーシア] [シンガポール] [馬華文学]

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①~④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文タイトル、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

- ③JMooC gacco「交流文学研究」担当および反転学習 2014.10-2014.12
- ③インドネシア華人作家協会「アセアン文芸賞」招聘、2014.12
- ②田村慶子編著『シンガポールを知るための65章』第三版三刷、項目執筆、明石書店、2015
- ③マレーシア三爺王府「創立大会」招聘、2015.1
- "Made in Malaysia vea Formosa to Japan"発表 Imaging Asia Sympo, NTU, 2015.1
- ①文戈「母の語り」翻訳『東南アジア文学』13、2015.3
- ④「関于我的馬華文学研究」講演、南洋理工大学中国研究学科、2015.1

※この(様式2)に記入の、成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。